

阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I



形かたちより心こころの持ち方もかへるべし
神かみ第一だいいちになせよ祈いのれよ

【尊師 出口日出磨】



教主さまお作 灰釉茶盃 「アマゾン」

伯光苑土+サンジョゼ・ド・リオレット土+ブラ
ジルインテルナツイーア土+マナウス砂+アマゾン川水
+パルラムンジ神殿聖水/ブラジルナツ殻釉+インガ
エドリス葉釉+アマゾン川水+パルラムンジ神殿聖水

「晦日の祓」

東京宣教センター愛善宣教課長 西山 桂一郎

いよいよ師走を迎えました。

「師走」とは12月の別名で、年の終わりを意味します。年末の忙しさを表す言葉ですが、その一環として行われる大掃除も、年の締めくくりの大切な習慣です。

特に12月末には、家の中を大掃除することで一年の汚れを祓い、新しい年を迎える準備を整えます。大掃除は物質的な面の掃除だけでなく、心の掃除にも繋がります。部屋をきれいにすることで、心も整い、来年に向けての目標や気持ちを新たにすることができます。また、普段気づかない部分に目を向ける良い機会にもなります。

聖師さまは、

「身の垢あかは湯水ゆみづ石鹸せけんであらへども洗あらひがたきは心こころなりけり」(『大
本の道』四一、清潔主義Ⅱ心身修祓の大道)

とお示しのように、物質的な掃除以上に心の掃除が大切です。しかし、心の掃除はしにくいもので、つい後回しにしがちです。心の中に地獄的な思いが積み重なると、心は黒く汚れてしまいます。自身の心を静かに振り返って見た時、地獄的な気持ちはありませんか？

その汚れた心を清めるためには、自分自身を省みることが重要ですが、それとともにお祓いも大切です。

本年から、両聖地や東京本部では「晦日の祓」が行われています。晦日の祓は、年内に身についた心の汚れや災厄などを浄化し、新しい年を清らかな心で迎えるための祓いの儀式です。

家などの物質的な掃除とともに、心を祓い清めて、来る新年を迎える準備にとりかかりましょう。



